

1999（平成 11）年度事業報告書

2000年3月14日～3月31日

1. 組織活動

(1) 機関会議

① 理事会

第1回通常理事会を4月29日に実施した。

② 評議員会

第1回評議員会を5月13日に実施した。

2. 各種事業

財団設立準備会段階で実施し、その債権・債務関係の譲渡を受けた事業について報告する。

(1) 環境再生活動の推進

① 八間川をシンボルとした環境再生活動（助成事業）

環境再生のシンボリック活動として、地域の中心部を流れる八間川について、住民が憩い、子供が遊ぶことのできる水辺を創り出すための再生プランづくりを地球環境基金の助成を受け、市民参加で進めた。結果については、報告書として出版する準備を進めている。

<四回の調査>

現状把握としてシーズンごとの調査を実施した。調査項目は、COD パックテスト、水草、生き物（水生昆虫、魚）、砂の堆積、聞き取り調査等であった。調査後にワークショップ形式で、取り戻したい八間川の姿やそのための方法について話し合った。

<シンポジウムの開催>

2000年1月23日、地域住民、調査参加者など60名の参加をえて、水島公民館において「水辺環境とまちづくりを考えるシンポジウム」を開催した。横浜市環境科学研究所森清和氏に水辺環境とまちづくりについて、調査結果については榎本敬氏（岡山大学資源生物科学研究所助手）、佐藤俊明氏（岡山県立高校教諭）、田賀辰也氏（岡山県立高校教諭）に報告いただいた。

② 水島地域再生長期計画の検討

実践活動および調査研究活動等の成果を総合化し長期的な視点にたつて水島地域の将来像を考えるため、地域関係者や専門家の協力を得て研究会を実施した。今年度、総合計画、環境基本計画の見直しを進めている倉敷市に対し、研究会で取り上げられた課題について、行政計画へ反映させるよう意見書を提出した。

(2) 公害被害に係わる体験や教訓を活かす活動

① 公害裁判資料の保存・整理方策の検討

倉敷市公害裁判における原告患者や地域の公害反対に関する資料の保存・整理を進めるとともに、財団法人公害地域再生センター（以下あおぞら財団とする）主催の公害資料保存研究会専門委員会及びワキンググループへ参加し、資料保存の意義、整理方策の課題について検討した。

② 地域の公害体験“語り部”活動（受託事業）

水島地域の公害経験や教訓を他地域および後世へ伝えるため、映像で記録化する活動を進めた。白井久夫氏（(株)創映社、元NHK、映像ジャーナリスト）に、記録映画づくりを依頼した。撮影は計5回、のべ23日実施、編集ののちに約60分のビデオテープとして成果品が完成した。

③ コンビナート公害に関する経験の途上国への情報発信

全国公害患者の会連合会が実施する途上国の環境NGOとの交流活動（今年度はフィリピンの環境NGOを招聘）に協力した。主にマニラでNGOの事務局長として活動しているMs.Victoria Lopez (Executive Director/SIBAT)、セブ島で弁護士としてNGOを支援するMs.Ameil Estrada (Legal Staff, Advocacy Officer/ERIC)を招いた。倉敷公害患者と家族の会および倉敷医療生協との懇談、倉敷市環境監視センター視察及び懇談、倉敷市との環境行政についての懇談の設定をし、水島の経験を伝え、またフィリピンの現状の報告を受け、情報の交流をおこなった。

④ 地球環境市民大学校への協力（受託事業）

あおぞら財団が環境事業団の委託により岡山県下で実施する地球環境市民大学校開催にあたって実行委員会を組織し、企画運営を手がけた。「瀬戸内の環境から考える地球環境と国際協力」をテーマに、2000年2月11、12日実施。参加者はスタッフ、講師を含め約90名。地域の開発を考える分科会等の場を通じ、水島の経験を伝えることができた。

(3) 調査研究の推進

① コンビナート周辺的环境改善に関する調査研究（受託事業）

設立準備会段階から取り組んできたシンポジウム等の成果をふまえ、コンビナート地域の環境再生のあり方について学際的かつ市民参加型の調査研究を進めた。今年度は「温暖化対策における都市緑化の推進のための手法調査」としてあおぞら財団より事業委託を受け、調査研究を実施した。現在、地域緑化の方向性についての報告書をまとめている。

<市民参加型樹木調査>

水島緑地（緩衝緑地帯、9.5ha）にて「子供葉っぱ判定士」（環境庁）パンフレットを参考に、市民自らが樹種、幹の太さを調査、CO₂の吸収量を概算する調査を実施した。（26名参加の調査を二回、学生アルバイト調査）

<水島コンビナートのCO₂排出量の推計>

倉敷芸術科学大学狩野勉教授、山本健治助教授の協力を得、コンビナートの二酸化炭素の排出量の推計値の試算を実施。二酸化炭素排出原単位（国立環境研究所発行）、岡山県工業統計を使用し推計値を出した。

② 瀬戸内海的环境再生に関する調査研究

コンビナート開発によって疲弊した瀬戸内海的环境再生について、今年度は倉敷医療生協環境委員会が実施した水島灘から笠岡沖にかけて沿岸地域における海の調査への協力をおこなった。調査は、沿岸部の状態、表層海水温、透明度の観察・記録、海水汚濁原因推定のための海水採取を行った。結果については報告書としてまとめた。

以上